

にゅうどう雲

令和3年

7月15日(木)

【その 6】

前号に引き続き、みなさんの1学期を紹介します。ぜひ、読んでみてください！



『1学期を振り返って』

私は、1学期に挑戦したことがある。それは、学級委員に立候補したことだ。

私は以前から、学級委員会に入りたいと思っていた。しかし、「自分が学級委員としてしっかりやっていけるのか」など、やってみたいという気持ちよりも不安が勝ってしまい、立候補していなかった。そして、2年生になっても、そのままの気持ちを持ち続けていた。なので、初めは学級委員に立候補することをためらっていた。しかし、委員会決めのとき、「立候補しないでモヤモヤするくらいなら、少しでもやりたい気持ちがあれば立候補した方がいい」という先生の言葉に背中を押され、私は立候補することにした。その結果、私は副学級委員になれてとても嬉しかった。また、立候補せずにいて、後悔しなくて良かったと思った。そして、その後の活動も、自分が出せる精一杯の力で、委員会に参加できたと思う。

私は、今回学級委員に立候補して、自分に少し自信がついたと思う。また、少しでもやってみたいという気持ちがあれば、そのことにチャレンジしていく方が、自分を成長させるのではないかと考えた。なので、今回つけた自信を2学期以降ももち続け、様々なことに挑戦していこうと思った。

C 糸旦

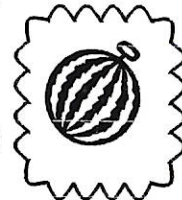
●「新しいことに挑戦するときは、多かれ少なかれ勇気が必要になりますね。そこで新しい一歩を踏み出せると、今までは味わったことのない貴重な経験ができるんですね」

『1学期を振り返って』

学年が変わり2年生になった。新しく後輩が入ってきて、ますますひばり中生としての実感が感じられてきた。

時には、近所の方から注意、苦情のお声をいただいたが、それをしっかりと改善できているのが、2年生のすごいところだと感じた。

新しく、また前期の係・委員決めが行われて、僕は2年生で副委員長になり、2年生としての自覚がひしひしと感じられ、より一層意欲が出てきた。



2年生になり運動会が行われた。今回も縮小の形での運動会だったが、僕は運動会が一番良い思い出だと思う。今回は、前回にもう1つ種目が加えられて、中縄が追加された。C組はリレー、中縄も絶好調で、好記録がどんどん出ていた。これも偶然ではなく、C組のみんなの団結力だと思う。その後も練習を重ね、中縄ではわずかにD組に負けてしまったが、リレーでは2位と差を大きく離して1位になれて、C組は総合優勝を取ることができた。

ここですごいところは、1位もすごいが、何より他のクラス同士で、もめ事が起こらなかったことだ。こんなささいな行動一つ一つでも、ひばり中生としての自覚を感じさせられ、良い方向に進んでいってると感じた。

あと少しで2学期が終わり、部活・委員会など様々なところで、3年から2年にバトンが渡されていっているが、ひばり中生の一員として頑張りたい。

C 組

●「運動会では、どのクラスも自分たちのベストを尽くすことを大切に、行動していましたね。みんなで団結して勝利を目指す姿勢が、良い雰囲気を生んでいたのですね」

『1 学期の努力』

私は、2年生の1学期はととても努力し、日々一生懸命に頑張ったことがあり、それは次の2つです。

1つ目は、授業です。授業のどんなところを努力したかという、それは話を聞くときの態度です。なぜなら、授業では先生の話聞くということは、とても重要であると私は思うからです。ただ、黒板に字を書かれるだけだといまいち頭に入ってこず、あまり覚えられないと思います。しかし、そこに“声”を入れるだけで、字を見るよりは格段に頭に入ってくるので、私は、今学期は話を聞く、ということを努力しました。

2つ目は、自分の発言に気をつける、ということです。なぜなら、自分の発言を後先考えずにしてしまうと、結果的に他の人を傷つけてしまったり、後悔してしまったりすると思ったからです。そのため、私は少しでも他の人が不快な気持ちにならない言葉を選ぶ、ということを努力するようにしました。

1学期というのは、新しい学年になったことで、不安なことが多かったり、春休み気分のままになってしまったりのときがあったので、常に自分が努力することを決めておき、メリハリのきいた生活をするように心がけました。2学期は、1学期で努力したことをおろそかにしないようにし、また新たに努力することを決め、それを達成できるようにしていきたいです。

A 組

●「普段の生活で、うっかりと見逃してしまいがちなところに、しっかりと目を向けることができましたね。自分の努力目標をもっている人は、きっと成長につながりますよ」

『今できること』

1学期は、「我慢をする学期」だったと思います。部活の大会や校外学習、学校外での外出など、様々なことが中止や延期になってしまいました。

一番印象に残っていることは、部活の休止です。夏に控えていた大会がなくなったことで、部活が一切できなくなってしまいました。その後の大会も開催のめどが立たず、悔しさのやりどころもなくなってしまいました。しかし、今、悔しさやストレスを溜め込んでいることは、決して悪いこととは言えないと思います。その悔しさやストレスをバネに、勉強や筋トレなど、今できることに全力で励み、今後につなげていく。そして、部活や校外学習が始まったときに、貴重な思い出になるように、悔しさをぶつけていきたいです。

このように、「今できないことを嘆く」のではなく、「今できることに全力で励む」ことで、今後の楽しさや達成感につながっていくと思うので、日々の努力を怠らずに頑張りたいです。

A 組

❶「部活動をはじめ、楽しみにしていたことが軒並み中止や縮小になってしまい、本当にやるせない思いですね。気持ちを切らさぬようにして、来るべき日に備えましょう」

◎「初めて“先輩”と呼ばれるようになった、この1学期。みんなは、その立場をしっかりと自覚して、充実した生活を送っていたようじゃな。長い長～い夏休みが明けると、いよいよ新校舎での2学期じゃ。9月には生徒会選挙が行われて、この学年がひばり中の中心となっていくのじゃ。みんな、その覚悟はできておるかのう…？40日間、しっかりと力を蓄えて、新学期はみんなのパワーが炸裂することを期待しておるぞよ！」

